

TOKAS-Emerging 2020

文化でつながる。未来とつながる。

TokyoTokyo
FESTIVAL

公募によって選ばれた、35歳以下の若手アーティストによる展覧会！

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団では、Tokyo Tokyo Festivalの一環として「TOKAS-Emerging 2020」を開催します。「TOKAS-Emerging」はトーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）が、2001年の開館以来、若手アーティストの活動支援として行っている、日本在住の35歳以下のアーティストを対象に、個展開催の機会を提供する公募プログラムです。

今回は全国から108組の応募があり、ポートフォリオ審査と面接審査を経て、6組のアーティストを選出しました。平面、立体、映像、インスタレーションなど多様なジャンルにまたがる新進気鋭のアーティストたちによる個展を、2020年4月から6月まで2会期にわたり実施します。また、各会期初日には審査員をゲストに招き、出展作家とのオープニング・トークを予定しています。

■ 展覧会概要

展覧会名： TOKAS-Emerging 2020

会期 | 出展作家： 第1期 2020年4月4日(土)～5月6日(水・振休)

宮川知宙、GengoRaw（石橋友也＋新倉健人）、水上愛美

第2期 2020年5月16日(土)～6月14日(日)

埴 龍太、吉田志穂、岩本麻由

会場： トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

開館時間： 11:00-19:00（最終入場は30分前まで）

休館日： 月曜日（5月4日は開館）

入場料： 無料

主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース

ウェブサイト： www.tokyoartsandspace.jp/

《関連イベント》

◆ オープニング・トーク

第1期 | 4月4日(土) ゲスト： 榊田倫広（東京国立近代美術館 主任研究員）

第2期 | 5月16日(土) ゲスト： 三本松倫代（神奈川県立近代美術館 主任学芸員）〔予定〕

16:30-18:00 オープニング・トーク

18:00-19:00 交流会

◆ スタッフによるギャラリー・トーク

4月18日(土)、5月30日(土) 15:00-15:30（予定）

＜お問い合わせ＞

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）広報担当：市川、竹野

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 参加作家／広報用画像 ※この他にも広報用画像をご用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

第1期 2020年4月4日(土)～5月6日(水・振休)

宮川知宙 | MIYAKAWA Tomohiro

「スーパーゴーストカミカゼアタック!!!」



1. 《5, 4, 3, 2, 1, ZERO》2019

「あらゆる表現はポリティクスと不可分であり、あらゆる現実と地続きである」を制作信条に掲げる宮川が、日常生活のさまざまな場面で遭遇した、政治的イシューが見え隠れする物事について再考し、複数のメディアを用いたインスタレーションを展開する。展覧会タイトルは漫画『ドラゴンボール』（鳥山明）に登場した技の名前に由来し、時代背景により同一の主題が異なる印象を与え得ることを示唆している。

◆プロフィール◆

1993年千葉県生まれ。神奈川県を拠点に活動。2019年多摩美術大学大学院研究科博士前期課程彫刻専攻修了。主な展覧会に「引込線/放射線」（北斗第19ビル、埼玉、2019）、「to install anti-monument」（Art Center Ongoing、東京、2018）、「研究授業、彫刻I、石材デザイン」（blanClass、神奈川、2017）など。

GengoRaw (石橋友也+新倉健人)

GengoRaw (Tomoya Ishibashi + Kento Niikura)

「コトバノキカイ」

生命や言語をモチーフに表現活動を行うアーティストの石橋友也と、自然言語処理エンジニアの新倉健人が協働する「機械の視点を通して、言葉の論理とイメージーションに関する実験／創作を行う」アートプロジェクト。本展では、近年飛躍的に発展している機械学習技術に着想を得た作品群を展示する。

◆プロフィール◆

石橋友也（1990年生まれ）と新倉健人（1989年生まれ）により2018年結成。東京都を拠点に活動。主な展覧会に「Encounters」（Ginza Sony Park、東京、2019）、「文化庁メディア芸術祭20周年企画展—変える力」（アーツ千代田3331、東京、2016 ※石橋）など。主な受賞・助成歴に「CREATIVE HACK AWARD」グランプリ（2019）、「文化庁メディア芸術クリエイター育成支援制度」採択（2018）など。



2. 《バズの囁き》2019

水上愛美 | MIZUKAMI Emi

「paintings of stranger」

膨大な創作の歴史から、異なる地域、時代の神話、物語、逸話、モチーフを採取し再構成して制作する水上は、過去、現在、未来の人間がどれだけ相違しうるかを問う。ブルースナウマンの初期映像作品やファッションブランドの商品写真、過去の美術作品を再構築し身体表現の歴史を追うとともに、日常におけるパラドックス的違和感や、パッケージされることのない他者の身体的労働にまつわる作品を展示する。

◆プロフィール◆

1992年東京都生まれ。2017年多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業。主な展覧会に「Feeling for a spider」（4649、東京、2019）、「What the f*** is happening in this Riv. 1（行く川の流れば絶えずして、しかしもとの水にあらず）」（アキバタマビ21、東京、2018）、「TWS- Emerging 2016 『底流 / Large eddy』」（TWS 渋谷、東京）など。主な受賞歴に「ターナーアクリルガッシュビエンナーレ2018」優秀賞など。



3. 《Tower》2019

第2期 2020年5月16日(土)～6月14日(日)

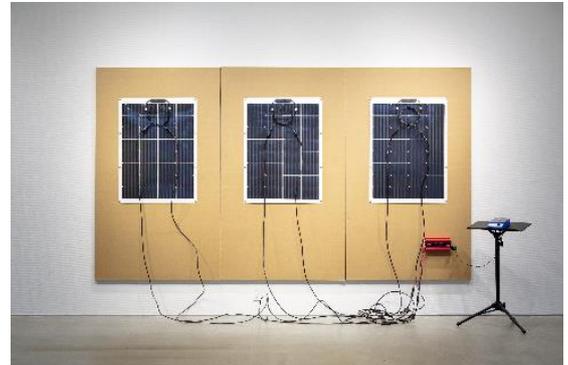
塙 龍太 | HANAWA Ryota

「創意に満ちた等価性」

絵画とスピーカー、ウォーターサーバーとスピーカーといった極度に性質の異なる複数の物を組み合わせることによって生じる、ナンセンスなユーモアと虚無感を伴った「積極的な受容」を表現し、物事に対する誤読を促す。本展では、ソーラーパネルを用いて絵画による発電を試みる作品や、スキャニングとプリントを繰り返し行うことで生じるエラーやノイズを採り入れた作品を展開する。

◆プロフィール◆

1990年神奈川県生まれ。東京都を拠点に活動。2017年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士課程修了。主な展覧会に「BankART AIR 2019」(BankART Station、神奈川)、「what a wonderful world」(ギャラリアンアスカヤマ、東京、2017)、「U-29 Under 29 Artists Exhibition 2016」(Gallery MoMo Ryogoku、東京)。



4. 《アクセプションペインティング》 2019

吉田志穂 | YOSHIDA Shiho

「余白の計画」

事前に画像検索や地図、航空写真などで撮影地をリサーチし、その中から被写体を見つけた後、吉田は実際に現地に赴き撮影を行う。実際の写真とインターネット上の画像を、デジタル/アナログと複数工程を経て組み合わせることで、今だからこそ表現できる新しい風景写真をインスタレーションとして発表する。

◆プロフィール◆

1992年千葉県生まれ。東京都を拠点に活動。2014年東京工芸大学芸術学部写真学科卒業。主な展覧会に「Quarry / ある石の話」(Yumiko Chiba Associates、東京、2018)、「VOCA展2018 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」(上野の森美術館、東京)、「測量 | 山」/ 「砂の下の鯨」(資生堂ギャラリー、東京、2017)。主な受賞歴に「Prix Pictet Japan Award」ファイナリスト (2018)、「第11回写真1-WALL」展 グランプリ (2014) など。



5. 《34°57'15.6"N 139°47'02.5"E》 2019

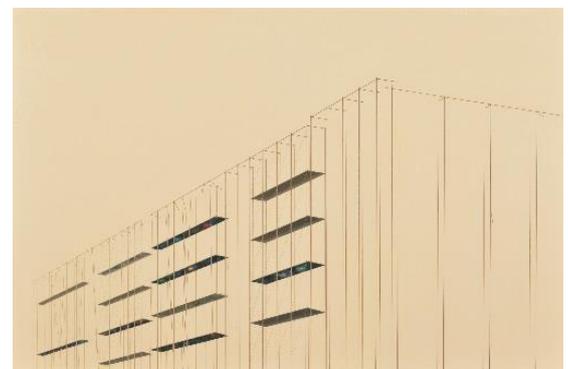
岩本麻由 | IWAMOTO Mayu

「Untitled Scenes」

見過ごされがちな日常の「かたち」や出来事をテーマに絵画制作を行う岩本は、未完成のビルや廃れた家といった使い道を失った場所をモチーフとして、大型キャンバスやロール紙上に再構築された別の不確かな風景を創造し、インスタレーションで展開する。

◆プロフィール◆

1991年大阪府生まれ。神奈川県を拠点に活動。2016年女子美術大学大学院美術研究科美術専攻洋画研究領域修了。主な展覧会に「FACE 2020 損保ジャパン日本美術賞展」(東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館、東京)、「シェル美術賞展 2017」(国立新美術館、東京)。主な受賞・助成歴に「第32回ホルペイン・スカラシップ奨学生」(2017)、「女子美術大学美術館賞」(2016、2013) など。



6. 《Untitled》 2018-2019